

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年4月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4692600028
法人名	社会福祉法人 滴々会
事業所名	グループホーム 音野舎
所在地	鹿児島県南九州市知覧町郡2069番地2 (電話) 0993-58-7181
自己評価作成日	平成31年2月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成31年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他人に対し自分に対し「明るく・温かい心・笑顔」をモットーとし入居者との関わり・御家族との関わりを大切に、お互いが気軽に話し合えるような関係を築けるように日々努めています。レク活動では「考える力・想像力」に繋げられるように脳トレと称し簡単な計算問題・文字の練習、想像力を活かせるような塗り絵を実施しています。また週に1回作業療法士による合同レクや、食事会等でユニット同士の交流を深めています。健康面では併設の訪問看護ステーションの24時間オンコール・定期的な健康チェックを実施しており不安の無い毎日を提供できていると思います。年間を通しての大きな行事などは家族にも声を掛け法人全体で行い隣接の特養・ケアハウス・デイサービス・多機能ホームの方々との良い交流の機会となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、同一敷地内に母体の特別養護老人ホームやケアハウス・デイサービス・小規模多機能ホームと隣接しており、合同イベント等での交流が図られると共に、法人内の協力体制が整っている。
- ・自治会に加入し、地域の一員として総会や菜の花祭りの行事に参加している。法人の敬老会や納涼大会・クリスマス会等で多くの住民と交流したり、高校生の実習や保育園児の来訪を楽しんでいる。
- ・個別対応の「自宅巡り」を数年前から実施しており、利用者のこれまでの生活や人との関係を継続できるよう努めている。
- ・定期的に、作業療法士によるレクレーションや理学療法士のリハビリ等を取り入れている。
- ・職員の質向上のために資格取得や研修参加を支援しており、法人で資格取得の勉強会も実施している。職員間のコミュニケーションは良好であり、働きやすい就業環境の整備に法人として取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎朝朝礼時に皆で復唱してから業務に入っている。</p>	<p>職員で作成した理念を玄関・事務室に掲示し、パンフレットにも掲載している。理念を朝礼で唱和し確認して実践に繋げており、事業所会議でケアの振り返りを行っている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>法人の行事や地域密着型の行事にて外部との交流が持てている。保育園児の慰問や避難訓練など地域の方々の参加で一緒に活動が出来ていると思う。</p>	<p>自治会に加入し、地域の総会や菜の花祭りに参加している。法人の敬老会・納涼大会・クリスマス会に家族や住民の参加があり、地域との交流の機会となっている。小規模多機能ホームと合同で保育園児と交流したり、高校生の実習やボランティアを受け入れている。</p>	
3		<p>○事業所の力を生かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。</p>	<p>施設見学や視察時にホーム内を見学してもらいながら生活の場を見ていただき認知症の方々の理解を求めている。推進会議等でも発信の機会となっている。2月に「ケアニン」の上映を法人で行い法人として認知症の理解を深めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>生活・活動状況・ヒヤリハット内容を報告し検討。質問等があれば対応し今後の生活支援に活かせるように努めている。職員としては決まった職員のみ参加している。</p>	<p>定期的に開催し、利用者の状況や活動報告・苦情・相談・ヒヤリハット・事故報告等を行っている。茶話会形式は意見が出しやすいと好評だった。意見交換が活発に行われる運営推進会議になるよう、内容等を工夫し、意見を取り入れるようにしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>推進会議に出席して頂いており状況を報告したり、事故が合った際には速やかに報告している。</p>	<p>市担当者とは書類提出や報告で窓口に出向している。電話でも相談している。行政主催の研修会や認知症カフェに参加している。運営推進会議にも参加してもらって連携を図っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人・事業所内で勉強会を開催している。現時点では身体拘束は無い。離園の恐れのある利用者に対しては玄関は施錠せずドアに鈴を掛けて離園を未然に防いでいる。法人の会議や運営推進会議等でも報告を行い状況を説明し、今後可能性があるとしたら規定に沿って対応していく。</p>	<p>身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催している。マニュアルを基に職員の研修会で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせず、外出希望者には散歩をしたり、情報を法人内で共有し、見守り等の協力を得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人・事業所内で研修を受けている。各自意識して取り組んでいるが言葉かけではまだまだ気を付けないといけない点があるように感じる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人全体の研修に参加し資料や説明を元に研修を受けている。業務の都合上、出席出来なかった職員は資料の配布と伝達を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に「重要事項」「利用契約」を説明し署名・捺印を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年に1度「満足度調査」を実施し家族からも意見を頂き反映できるようにしている。面会時に家族からの意見や要望があれば随時聞ける体制は取っている。</p>	<p>利用者からは、日々の関わりの中で思いを把握するように心がけている。家族からは面会時の対話やアンケートで把握し対応している。アンケートは出された意見を検討し玄関に掲示している。「職員にネームをつけて欲しい」、「フロアの照明について」等の要望があり、意見を反映するように取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>事業所会議やミーティング等で各会議での決定事項等を伝達している。問題が起きた時は関係個所に相談し意見や助言をもらっている。</p>	<p>管理者は、毎朝のミーティング時や月1回の事業所会議で職員の意見を聞いている。ケアの統一に関する提案が多く出され、検討して反映できるよう取り組んでいる。個別相談は管理者が受けており、必要に応じ、個人面談も実施している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人の会議等による業務改善報告、各事業所の主任を通して勤務状況の把握や資格取得のための研修案内、介護職員の職位、職責又は勤務内容に応じた任務等の要件を定めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人・事業所の研修は実施されているが外部研修は参加する職員が特定されている。要望があれば人員の調整を行い参加できるように努める。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者同士の交流は個人的にはある。地域連携等の研修等には人員の都合上参加が難しい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を参考にしたり、家族や本人から聞き取りを行い情報収集をし安心できる環境・関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の情報収集や面会時などに近況報告を行い誠意を持って対応し、家族を安心して預けて頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込み時や相談時に必要と思われるサービスを検討し、提案・紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を制限してしまっている事もあるような気がする。なるべく出来る事は自分でやってもらい押しつけないように心掛ける。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	正月は外泊者が多く家族とのふれあいが持てたのではないかと思う。面会時は各居室で水入らずの時間を提供している。面会が減ってきている家族に関してはついでの際に外出をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に行く機会を作ったり、会話の中で地元や個人名を少しでも思い出して貰えるように支援している。他事業所に近所の人利用している場合は状況に応じて会いに行ったりしている。	知人・友人の面会や家族の面会があり、居室で談笑している。自宅外泊も行っている。職員と関連施設へ訪問したり、家族と馴染みの店に買い物や理・美容室・墓参り・外食等へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ったりして孤立しないように努めている。レク時はお互いが協力できる内容を考え皆で一緒に楽しめるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談等があれば対応している。地域で再会した時は近況を聞いたりして交流を保っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時や認定更新時に本人や家族に意向や希望を確認しサービス計画に反映するように心掛けている。また随時要望・要求があれば可能な限り対応するようにしている。	職員は日頃の気づきを個人日誌・介護日誌に記録している。朝礼で話し合い利用者に反映できるように心がけている。意思表示が困難な場合は、家族からの情報を参考に本人が好きなことを題材に対話しながらコミュニケーションを取り、思いを引き出せるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のファイルに生活歴を貼付してある。他にも発見があるようにコミュニケーション時に引き出せるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で状態観察に努め個々の現状を記録に残し共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に看護師とケアカンファを実施。情報の共有に努めている。必要に応じて家族と話し合いの場を持ち計画の見直しや変更等に活かしている。	本人・家族の意見を基に担当者会議を本人・家族・看護師・職員で実施し、介護計画を作成している。モニタリングを毎月実施し、ケアカンファレンスを3ヶ月に1回実施し、状態変化時・更新時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌や介護日誌で記録に残している。連絡ノートを活用し必要であれば皆で検討し介護の見直し・実践をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急の病院受診等で家族が対応出来ない時は職員が送迎・付添いを行っている。買物も代行している。併設の訪問看護ステーションが24時間オンコール体制にあり本人・家族の安心に繋がっていると思う。週1回作業療法士による合同レクや理学療法士による機能訓練も実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議委員に市職員・地域代表・家族代表の方々に依頼。避難訓練にも地域の方々や消防署の立会いもあり協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図り急変時に家族が対応出来ない時は職員付添いで対応するようにしている。定期受診時はバイタルチェック表や情報提供書を家族に渡し病院との連携をとっている。また往診時は職員が立ち会い状況を報告している。	本人・家族の希望に応じたかかりつけ医となっている。受診同行は家族を基本としているが、職員が同行する場合もある。情報提供書を作成し家族・医師・事業所が連携を取っている。週に1回看護師の健康測定を取り入れている。口腔支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>併設の訪問看護ステーションが24時間オンコール可能である。看護師による健康チェックを実施し介護員との連携が図られている。定期的にケアカンファを開催し医療従事者からも専門的な意見や指示をもらうようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時に情報提供書を作成し病院との情報の共有に努めている。病院訪問を行い看護師に近況を聞くと共に関係作りに努めている。退院時の連絡が来たら再度病院を訪問し状態を把握したうえで家族と相談し退院の調整を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>加齢に伴い心身機能の低下もあり重度化が避けられない状況にあるが、必要に応じて家族との話し合いや主治医との連携を図り状態に見合った支援のあり方を検討している。急変時の対応については入居時に家族より意向を確認している。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について、指針を説明し同意書を得られている。利用者の状態に応じ主治医から家族に説明し、意向に沿った支援に取り組んでいる。医療機関への入院や関連施設での看取り介護に移行することもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人・事業所でも看護師の指導の下、マネキンを使った実践的な勉強会を開催している。参加できなかった職員は後日研修を受け全員実施している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>昼間想定・夜間想定で避難訓練・非常招集訓練を消防署・地域住民、他事業所の協力をもらいながら実施している。</p>	<p>消防署の指導の下、年2回昼夜想定で避難訓練を実施している。非常招集訓練を行い、どの位の時間で対応できるか調査をしている。緊急通報装置に地域住民の登録がある。関連施設の協力も得ている。災害時の米・水・レトルト食品を法人で一括して3日間程度備蓄している。地震訓練も計画している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>気持ちに余裕が無く利用者の気持ちに沿ったケアが出来ない時もあるが、常に振り返る事で意識をするようにしている。利用者に応じた対応を行い否定しないケアに努めたい。夜間のみ就寝時の見守りの為ドアを10センチほど開けて対応している。</p>	<p>研修会を実施し人格やプライバシーを損ねない配慮をしている。職員の言葉遣いで気になる時は、管理者が注意喚起している。居室やトイレのドアを閉めてプライバシーを確保したり、入浴は同性介助の対応や入浴拒否があれば無理強いしない等、羞恥心やプライドへの配慮に努めている。職員間の情報交換等は利用者の前でしないようにしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>あらゆる場面で職員からの働きかけが必要な状態の方も少なくないが個々の可能性を少しでも引き出せるよう職員本位にならず「待つ」事を大事にしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>活動の参加は強制はせず利用者の意思を尊重している。その際も見守りは実施している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>馴染みの美容院等を利用して欲しいと思うが家族の調整が取れず訪問理美容を利用する利用者が増えてきている。衣類は季節に応じて家族に依頼し衣替えをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皿洗い等以前まで一緒にしていたが徐々に出来なくなって来ており準備・片付けは出来ていない。食事形態や嗜好によりミキサー食や刻み食で提供。食思が少ない方は代替え品(好物)を提供している。	献立は管理栄養士が確認している。利用者の食事形態に合わせた食事を提供している。家族と一緒に行事に参加し、食事する機会もある。誕生日は家族と外食したり事業所でケーキで祝っている。自分ができる範囲で食事の手伝いをしている。そうめん流しや外食を計画し、食事を楽しんでもらえるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は交代で考え管理栄養士にチェックしてもらい助言をもらっている。お茶より白湯を好む利用者や牛乳嫌いな利用者もおり個々に応じた好きな飲み物を提供し水分を取って頂いている。生活シートに摂取量を記録し変化がある時はそれぞれが注意し声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた口腔ケアを実施。始めは自身でもらい職員は見守り・確認・補助をしている。義歯使用者は週3回ポリデント消毒をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で個々のパターンを把握し、日中は必要に応じて声かけやトイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。夜間は個々の状態に応じPWCを使用したりパットの交換をする利用者もいる。トイレで排泄する事を大切にしている。	排泄パターンを把握し、日中は、声かけや誘導を行ったり、見守りでトイレでの排泄を支援している。落ち着かないしぐさ等の時は、トイレ誘導し失禁の回数を減らす工夫をしている。夜間夜間のみ、状況に応じてポータブルトイレやパット使用をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自己排便が出来るように水分や繊維の多い物を提供している。必要時は下剤を与薬する。レク時に体を動かす事している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の意向を確認し拒否のある利用者に対しては無理強いをせず時間を置いたり日にちを変えて対応している。入浴時は本人のペースに合わせて対応している。希望時は夜間以外いつでも対応出来るように努めている。	入浴は週3回を基本に、希望時はいつでも入浴できる準備をしている。シャンプー剤は、本人希望の物を使用している。同性介助で対応し、浴槽の滑り止めマットで安全にも配慮している。入浴を拒む場合は、対応方法を工夫し入浴につなげるようにしている。センサー機能付きの暖房器具を設置している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は部屋でゆっくり休む方、フロアでテレビを見て過ごす方と各々である。夜間はなるべく静かな環境を提供したいと考えている(安眠に繋げるため)。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問看護師の協力もあり薬のセットは看護師が行っている。2重3重の確認はしているが薬に対する知識は職員による。薬状はファイルに綴じいつでも確認出来るようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳みに広げると畳める方は各々寄ってきて一緒に畳んでいる。各自タンスに収納できる利用者にはそのまま頼んでいる。散歩が好きな利用者は手が空いた職員が連れだし気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出を喜ばれる方、嫌がる方とおりドライブ等に出掛けるのも固定されてきている。家族の連れだしもあり川辺二日市等に出掛けた利用者もいる。	天候が良ければ、広い敷地内を車椅子の利用者も散歩をしている。計画を立てて、花見や遠足・そうめん流し・豊玉神社の水車からくり見物に出かけている。家族と川辺二日市や受診・買い物・外食に出かける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人管理で持っている方もいるが殆どの方が職員管理で対応している。外出時は小遣いを渡し好きな物を買ったりへそくりに回す人もいる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>妹と葉書のやり取りをしている利用者や個人の携帯電話に毎週日曜日に家族から連絡がある利用者もいる。葉書はお小遣いから職員が購入しまたポストに投函する。携帯電話は充電が切れないように気を付けている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>トイレ等共有の場で食物残渣物を吐き出す利用者があり壁にビニールをかぶせたり適宜職員で交換している。畳みがありそこで数人で寛ぐ姿もみられる。壁面には職員と一緒に作成した季節の壁画を飾り空間作りをしている。</p>	<p>フロアは明るく加湿器を使用し、壁にはレクリエーションで作った季節毎の作品や行事のスナップ写真を掲示している。テレビ・テーブル・椅子・ソファ・畳スペースもある。利用者は、好きな場所で寛いで居心地良く過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自室では過ごさずフロア自席でゆっくり過ごす利用者もいる。職員とコミュニケーションを取ったりテレビを観たりとゆっくり過ごしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅にある家具や写真、好きな物を持って来てもらい、できるだけ自宅の部屋に近い空間作りに心掛けている。</p>	<p>居室には、電動ベッド・鏡付き洗面台・エアコンを備え、寝具はリースである。転倒予防のため畳にしている利用者もいる。テレビやテーブル・椅子・タンス等を置いたり、位牌や遺影・ぬいぐるみ・生花を飾り、本人が居心地良く過ごせるようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーで歩行の導線上に障害物を置かないようにして安全に往来が出来るようになっている。トイレや自分の部屋がわからなくなる利用者には標記し対応している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない